校長だより　向日葵　　２月７日　廣渡一郎

◆◇◆硬筆審査会◆◇◆

■昨日午後はランチルームで
糸島地区の「硬筆審査会」が
行われました。
子どもたちが魂をこめて練習を
続け，仕上げた渾身の作品の数々。
校内審査で選りすぐられた作品が
集まりました。

■審査にあたって，審査員の先生方
に次のようなメッセージを
届けました。

●「手書き」のこと。
私たち教師は書く，手書きする
という機会が以前に比べたら
減りましたがそれでもけっこう
ありますね。でも，一般的な大人の方にとって手書きの機会は今，あまりない気がします。
郵便物の受け取り，カードの署名…，他にぱっと思いつきません。
そしてこれは子どもたちにも同じことが言えます。

●これからますます手書きをする機会が減るかもしれないというときに，
はたして書写指導はどれほど必要なのか、という声があります。
でも手書きのよさ，手書きの力を私たちは知っていますし感じてもいます。
例えば手書きの方が記憶に残る。集中力がつく。心が伝わる…などなど。
このような手書きの力はさまざまな研究で科学的にも証明されています。
●文字を書くこと。ていねいに。整った美しい文字を書こうとすること。
ていねいで美しい文字をいいなあと感じること。そんな文字を書きたいなと願うこと。
たとえ手書きの機会がさらに少なくなるとしても，私はそんな心と力を子どもたちに育て
感じさせていきたい，と考えています。

■ノートの文字，テストやプリントの名前…。
そんなところから「ていねいに書く」「整えて書く」ことへの働きかけを続けることが
大切だと感じています。